

## 外ケーブル構造・プレキャストセグメント工法設計施工規準

pp44 の式 (解 7.4.1) に誤りがありましたので訂正いたします。改訂前からの誤りです。

(1)について 緊張直後のプレストレス力の減少は、コンクリートの弾性変形、外ケーブルと偏向部の摩擦、定着具におけるセットを考慮しなければならない。

(i) コンクリートの弾性変形による外ケーブルのプレストレス力の減少量は、定着点間で一定としてよい。その値は式 (解 7.4.1) により算出してよい。

$$\Delta P_p = \frac{1}{2} E_p A_p \frac{\Delta \lambda}{\lambda} \frac{N-1}{N} \quad (\text{解 7.4.1})$$

ここに、 $\Delta P_p$  : 弾性変形による外ケーブルのプレストレス力の減少量

$E_p$  : 外ケーブルのヤング係数

$A_p$  : 外ケーブルの断面積

$P_i$  : 外ケーブルのジャッキ位置での引張力

$\lambda$  : 定着点距離

$\Delta \lambda$  :  $P_i$  による定着点間の移動量 (左右合計)

$N$  : 外ケーブルの本数

定着点がほぼ図心にあり、軸方向の変形が拘束されていない場合、定着点間のひずみ  $\Delta l / l$  は式 (解 7.4.2) により算出してよい。

$$\frac{\Delta \lambda}{\lambda} = \frac{P}{E_c A_c} \quad (\text{解 7.4.2})$$

ここに、 $P$  : 外ケーブルの導入引張力

$E_c$  : コンクリートのヤング係数

$A_c$  : コンクリート断面積